ワークライフバランスを求めて

今は多様化時代です。人々の生き方も、家庭生活と仕事と趣味と地域活動など、多様な軸を持ちながらワークライフバランスを目指して、自分らしい豊かな人生を送ろうと考える人が増えています。

自由に自分の時間や働き方をコントロールしようと思っても、組織に属していればノルマや時間に拘束されて難しいかもしれません。しかし、どこにも属さず、しがらみのない個人事業主となる「起業」ならば柔軟な働き方ができるでしょう。特に、結婚後、家事・育児そして介護などで働くことをあきらめてきた女性にとっては、「起業」は再チャレンジへのチャンスになりそうです。

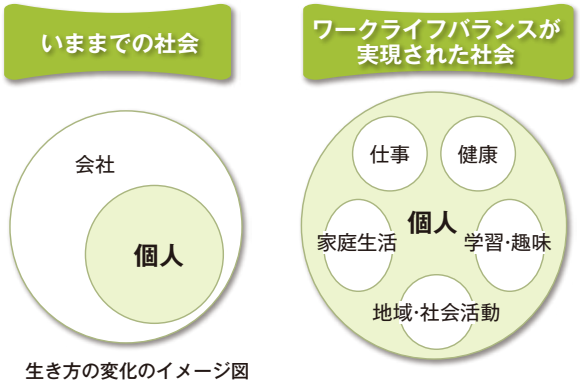
社会や生活環境の変化も女性の「起業」の追い風となっています。

ネット環境を整備すれば在宅の仕事が可能です。ちなみに「女性起業」をネットで検索すると、起業に関する塾、セミナー、大賞、助成金、支援などがヒットします。女性の目線や発想が新商品を生み、市場を開発して日本の社会や経済が活性化することへの期待がうかがわれます。

しかし何よりも、女性たちの意識が大きく変わってきているのです。女性による女性たちのネットワーク作りの広がりは全国各地で見られます。

今、多くの人が自分の好きなこと、自分にできることは何かを模索しています。

起業であれ、再就職であれ、自分の選んだ道で見つけるものは何でしょうか。女性たちのこれからの生き方が楽しみです。



生き方の変化のイメージ図

資料『セカンド・チャンス社会へ―妻が再就職するとき』大沢真知子＋鈴木陽子著

パステル おすすめ本

裸でも生きる
25歳女性起業家の号泣戦記

山口絵理子 著
講談社 1400円（税抜）

この本はバングラディシュで起業を決意し、ジュート（麻）を使ったバッグを現地で生産し輸入販売する会社を設立した一人の日本人女性の奮戦記です。

「大学の同級生は皆大企業に入り、いい生活をしている。私はこんな国でどうして辛い思いばかりしているのだろう」と、日本の大学を卒業後、途上国の大学院生となった筆者は悩む。やがて現地で日本の大手商社のインターンに採用され、ジュートに出会い途上国からのカワイイブランドを作るという自分の生きがいを見つけます。しかし、そこまでの道のりは七転び八起きの苦難の連続でした。

小学校ではいじめられ登校拒否に。その反動で非行に走り不登校になった中学時代に柔道に出会い、高校は柔道の名門校に進み男子柔道部に飛び込む。猛勉強で有名私立大学に入るも、在学中に途上国援助のインターンとしてワシントンの国際機関に。さらに1年後には現場を見たいとバングラディシュへ。

厳しい道をあえて選び、いかなる苦境、困難からも逃げず、悔しくては泣き、うれしくては泣きながら強くなっていく一人の女性のたくましさに驚かされますが、彼女にしてみれば、「人は何のために生きているのか」という問いかけの答えを捜し続け、最後に、社会的起業に行きついたのです。

多くの人に勇気を与える一冊です。